

まちを歩く

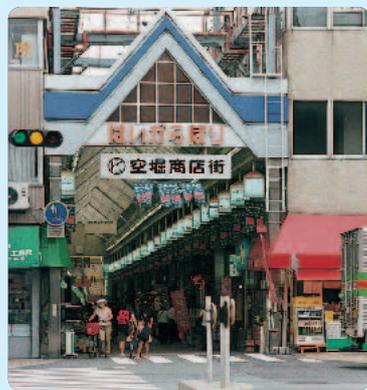
人権の
かおりを求めて

第6回

大阪市中央区 からほり 空堀商店街界限



空堀商店街界限は戦災を逃れた関係から、昔ながらのまち並みが残っている。アーケードの商店街のにぎわいから、一步路地や横道に入ると石畳や石段の道、稲荷や地藏堂、長屋、銭湯…、日々の生活の風情が色濃く映り、心をなごませる。どことなく懐かしい風景は、人と人が言葉を交わし、ふれあい、つながっていく、そんなぬくもりをかもし出す。



高齢化率約20パーセント。商店街界限には高齢者、とりわけ一人暮らしの人が多く住む。そんな特徴を踏まえて、特定非営利活動法人「高齢者外出介助の会」は、「外出の手伝いを通して、お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活をおくってもらおう」と、20歳代～80歳代までの約60人の会員が集い、地域に根ざしたボランティア活動を行っている。

具体的な取り組みとしては、高齢者の外出介助にとどまらず、高齢者やその家族を対象としたコンサートをはじめ、春と秋の遠足、電動車いすの貸し出し、介護保険外支援、生きがいづくり講座、入院支援—など多様で、さらに活動の輪が広がりをみせている。また、商店街の活性化にも協力しており、その一つとして、「からほり新聞」を発行。「まち情報」の発信にも努めている。

その活動の拠点となっているのが商店街の一角にある事務所。誰もが気軽に集えるサロンとしてビルの一階に開設している。

事務局長の永井佳子さんは「お年寄りを中心とした人の輪の広がりを願って活動してきました。その思いが少しずつ実って、今では、お年寄りにかかわる相談に限らず、いろいろな話題がサロンに寄せられるようになりました。多くの人たちがこのまちを愛して、そして、住み続けてほしい。私たちの実践がその一助になればとの思いを込めて、これからも活動を続けていきます」と話している。

そうぞう

12

2004.9*No.10

編集 後記



●…本誌9号（6月発行）。「性同一性障害」についての特集。自分の性別（からだの性）と心理的な性（心の性）が一致しないため、長い間ひとりで悩み続けてきた性同一性障害者のみなさん。「これからは自分に正直に生きていきたい」との当事者の方々の訴えに、多くの府民のみなさんから理解と共感の声が寄せられました。

●…榎坪琴鶴子さんへのインタビュー。ご自身の体験から映画にかけられる情熱に熱いものを感じました。「人とのかかわりの中で支えあう『自立』」と「介護の原点は対等な人間関係」など、一つひとつの言葉が印象に残りました。

戦争

阪南市 小学三年生(当時)
はしもと
橋本 あゆみ

戦争の本を読んだ
戦争で父と母と妹をなくし
よその家でいっぱいつらい思いをして
いっぱい泣いてがんばった
女の子

戦争なんて何のためにするのか
国がちがうだけで
にくみあい
相手をころす
ころさなければ自分がころされる

勝っても負けても
大切な大切な命が
いっぱい消えるだけで
命より大切なものはないのに

2003年度人権啓発詩・読書感想文募集事業(大阪府・大阪府教育委員会など)の入選作品より

2004(平成16)年9月発行
発行/大阪府企画調整部人権室

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目 TEL06-6941-0351 FAX.06-6944-6616 <http://www.pref.osaka.jp/jinken/>

編集/財団法人大阪府人権協会

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12 TEL06-6568-2983 FAX.06-6568-2985 <http://www.jinken-osaka.jp>

この情報誌は20,000部作成し、1部あたりの単価は48円です。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています